高岡短期大学紀要　第20巻　平成17年3月
Bull. Takaoka National College, Vol.20, March 2005

『高岡短期大学紀要』の終刊と新たな旅立ちについて

高岡短期大学長　西　頭　徳　三

平成17年10月1日，高岡短期大学は昭和58年10月1日開学から22周年を迎える。奇しくもこの日に，本学は新・富山大学の「芸術文化学部」として再出発する。したがって，『高岡短期大学紀要』は，この第20巻をもって終刊となる。ここで一抹の寂しさを禁じ得ない。なぜなら，本学の設立には県・市をはじめとする多数の関係者・市民の熱意の凝縮と長年にわたる紆余曲折があったからである。

本学設立への動きは，開学に先立つこと20年前の昭和39年5月，富山大学評議会の工学部の高岡市から富山市五福地区への移転決議にはじまると記されている。これ以降の詳細については，『22周年記念・高岡短期大学のあゆみ』に譲らざるを得ないが，ここでどうしても若干，第3代学長蝋山昌一先生のご業績に触れておきたい。

蝋山先生は平成10年4月1日本学学長に就任されたが，在任中はまさにわが国の大学改革期に当たり，富山県内の国立三大学の統合再編問題で強力なリーダシップを発揮された。また，本学の研究教育の顔・記録としての紀要の充実にも常に心を配られた。しかし，志半ばでご病気のため急逝された。「新・芸術文化学部（四年制）」構想は蝋山学長の先見の明なくしてはとうてい実現し得なかったに違いない。

新・富山大学は，人文，人間発達，経済，理，工，医，薬の7学部に，本学の芸術文化学部を加えて8学部から構成される。もちろん，芸術文化学部は本学の20数年間に及ぶ教育研究上の実績を踏まえ，新たな分野を切りひらいて挑戦する。ちなみに，「文化マネジメントコース」では潜在的な地域文化を掘り起こし，広範な伝統的な芸術文化と統合できる有為な人材を育成する。また，県内初の「造形建築科学コース」では，芸術的感性と工学の知識・考え方を併せ持ち，新たな建築文化を提案できる人材を地域社会に送り出す。

なお，新・芸術文化学部構想については，本巻所収の同設置準備委員会編『芸術文化学部創設にむけて』を参照されたい。

本紀要を長年にわたりご愛読いただき，本学の発展のためご助力下さった皆様に厚くお礼を申し上げたい。本学は本年10月1日の新たな旅立ちに向けて，教育研究体制を一層充実する所存である。今後とも忌憚のないご意見・指導を賜りたい。